

## 富山県庄川町 庄川温泉観光ホテル



### 1. 火災の特色

当該ホテルは、新館、本館、別館と増築が重ねられ、複雑な建物であったが、適マークは交付されていた。

そして、適マーク対象ホテルでは全国で初めて死者2名を出す火災となった。出火時、自動火災報知設備は非火災報による誤報の発生を防ぐため、ベルのスイッチが切られていた。

### 2. 出火日時等

#### (1) 出火日時

昭和57年11月18（木） 0時05分ごろ

#### (2) 覚知日時（覚知方法）

① 昭和57年11月18日（木） 0時10分（119番通報）

#### (3) 鎮火日時

昭和57年11月18日（木） 1時56分

### 3. 火元の概要

#### (1) 所在地

富山県砺波郡庄川町金屋3531番地

#### (2) 火元建物等の名称

庄川温泉観光ホテル(株)

#### (3) 火元建物の構造、形態等

① 建築年月

本館 昭和40年 5月17日

別館 不明 昭和39年以前

新館A)  
新館B) 昭和48年 3月31日

② 増改築の状況

③ 建物用途

ホテル(5)項イ

④ 構造

本館 鉄筋コンクリート造 地上4階建、  
地下1階

別館 木造、鉄骨、鉄筋造地上2階建

新館A棟 鉄筋コンクリート造地上4階建

〃 B棟 鉄骨(一部木造)造地上2階建

⑤ 面積(建築面積、延べ面積)

建築面積 3,196.0㎡

延べ面積 6,443.0㎡

⑥ 収容人員

収容人員 250名

当日宿泊人数 149名

⑦ 従業員数

40名

⑧ テナント数

なし

⑨ 建物階層別用途

階	新館A棟	新館B棟	本館	別館
4	客室	——	客室	——
3	客室	——	客室	——
2	宴会場	会議室	客室	——
1	車庫、機械室	事務室	ロビー・ホール	調理場他
地下1	——	——	映画室	——

⑩ 適マーク交付

昭和57年 7月15日

(4) 消防用設備等

① 消火設備

屋内消火栓設備、消火器

② 警報設備

自動火災報知設備、非常放送設備、非常ベル

③ 避難設備

(5) 防火管理の状況

① 防火管理者

選任届 昭和43年11月27日

② 消防計画

(届出) 昭和57年6月28日

③ 避難訓練

昭和57年7月5日、7月12日、消防計画に基づく訓練を実施

#### 4. 気象状況

(1) 天候

晴れ

(2) 風位、風速

風位：東南東、風速：3 m

(3) 気温、湿度（相対、実効）

気温：10.4℃、湿度：80%

(4) 警報・注意報

なし

#### 5. 出火原因

(1) 発火源

不明

( 社長室付近から火が出ているのが最初発見されているが、  
発火源を特定するに至っていない。 )

(2) 経過

不明

(3) 着火物

不明

#### 6. 損害状況

(1) 人的被害状況

① 死者2名（男2名）

② 負傷者8名（男3名、女5名）

(2) 物的損害

① 火元建物

ア棟数 3棟

イ焼損程度 本館 全焼

新館B 全焼  
別館 半焼  
ウ焼損面積 3棟合計 3,680㎡  
エ損害額 472,780千円

- ② 類焼建物  
なし

## 7. 火災の経過（火災の様態）

### (1) 出火場所等の状況

社長室からの出火と見られているが断定されていない。

### (2) 出火に至るまでの経過

不明

### (3) 火災発見の経緯

庄川温泉観光ホテル本館2階のバーにいた従業員Aが11時40分頃店へ入ってきた煙に気付き下階へ下りたところ社長室から煙が出ていたのを発見した。バーの従業員Cが廊下の電話で、119番通報したが通じず、隣家の喫茶店に通報を頼み、同ホテルへ戻って避難誘導にあたった。

### (4) 消防機関への通報状況

隣接する喫茶店の者が従業員の知らせで、119番通報した。

### (5) 初期消火の状況

① 従業員Aが屋内消火栓設備を使用して初期消火を試みた。

② 従業員Bが消火器で初期消火を試みた。

両者とも火災がかなり拡大していたため、効果はなかった。

### (6) 死者の状況

死者は2名発生しているが、死因はどちらも火傷と推定される。同ホテル社長は、消火活動を行なっているうちに逃げ遅れ、もう1名の死者である宿泊客は、友人に起こされ避難行動をおこしているが途中で逃げ遅れたものである。

### (7) 避難の状況

ホテル内の商用電源は停電したが、自家発電設備が作動し、誘導灯、屋内消火栓設備、自動防火扉などは作動した。旧・本館の防火扉は手動式で閉まっていなかった。宿泊客は旅行会社から事前に館内見取図を配られており、避難経路をある程度知っていたため、自力避難した。

### (8) 自衛消防隊の活動状況

社長、従業員がハンドマイクを使用して避難誘導するとともに、他の従業員が屋外から本館2階にはしごを架梯して4～5名を避難させている。

### (9) 火災拡大の状況

当ホテルは適マークを交付されていたにもかかわらず、本館の階段の防火シャッターが手動式であったため、閉鎖出来ず、上階への延焼を早めた、防火シャッターは、本館7カ所のうち2カ所は閉鎖されていなかった。本館と新館B館を区画するシャッターも3カ所のうち2カ所

は閉鎖されなかった。別館は木造であり、また、当時現場の風速が6～8 m/sであり、火勢を強める結果となった。

## 8. 消防機関の活動状況

### (1) 出動隊等

#### ① 出動車両

消防署	消防ポンプ車等	14台
消防団	消防ポンプ車等	31台
計		45台

#### ② 出動人員

消防職員	58名
消防団員	273名
計	331名

### (2) 消防機関の消火・救助活動の状況

#### 消火活動

先着隊が到着した時は、別館は最盛期であり、内部進入による救出活動は困難な状態であり、消防隊は別館の延焼防止活動に全力を尽くした。

## 9. 問題点・教訓

- (1) 非火災報が多発するため、自動火災報知設備のベルが切られていた。
- (2) 屋内消火栓設備及び消火器を使用し初期消火は試みたが、延焼拡大が速かったため効果がなかった。
- (3) 防火戸が4ヶ所作動しなかったため延焼拡大した。
- (4) 非常放送設備が活用されなかったこと。

## 10. 資料

図-1：1階平面図

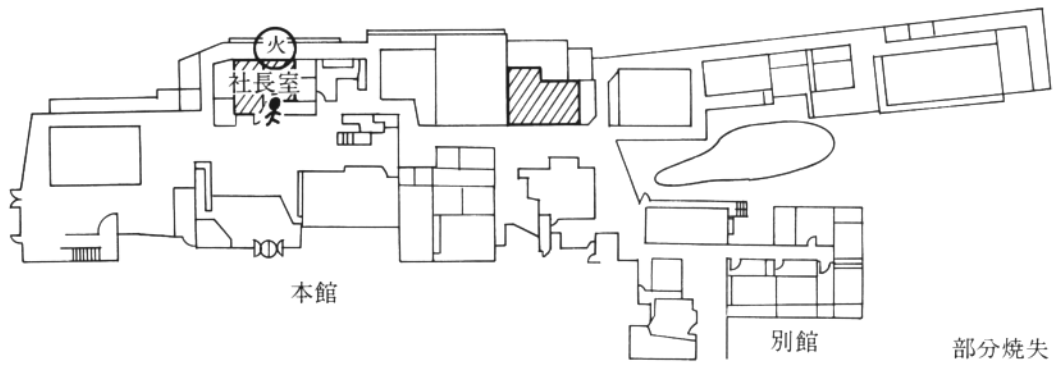


図-2：2階平面図

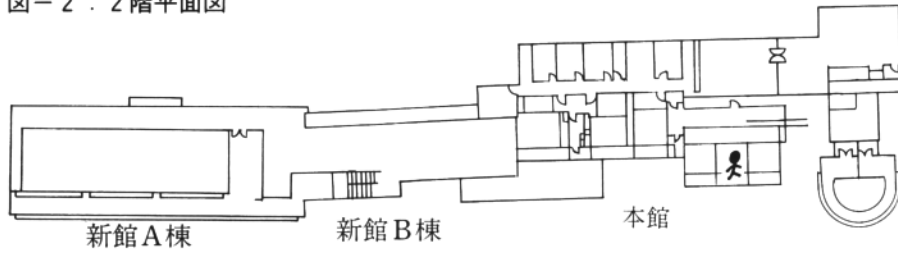


図-3：3階平面図

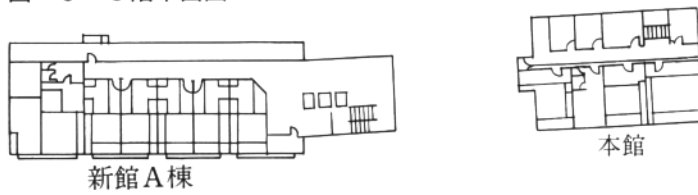


図-4：4階平面図

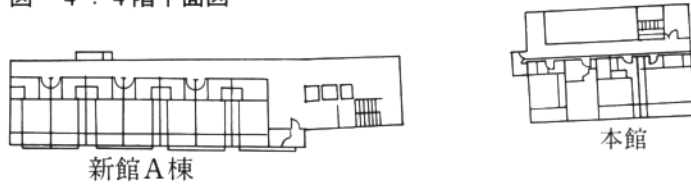


図-5：5階平面図

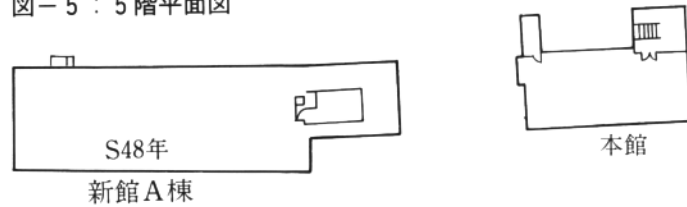


図-6：立面図

